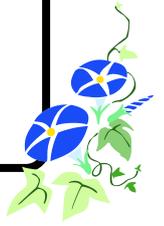


ことば便り



墨田区立押上小学校
校長 島田 和久
ことばの教室 NO. 4
TEL 03-3617-6925
令和5年7月3日(月)



夏休みももう間近。子供たちは楽しみにしているようです。ご家族ではどのように夏休みを過ごす予定ですか？ 熱中症や夏風邪などに気をつけて、夏を満喫してください。9月に会えるのを楽しみにしています。

7月

7・9月の行事予定

9月

- 4日(火) 都難言協専門研究会(午後)
- 5日(水) グループ指導(吃音)(15時半~16時半)
- 8日(土) 押上小土曜授業
- 11日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後)
- 12日(水) お楽しみ会(15時~16時半)
- 14日(金) 夏休み前 個別指導終了
- 18日(火) 保護者会(講演会)
- 21日(金) 夏季休業日始
- 21日(金) ~27日(木) 通級補充日

- 4日(月) 個別指導開始
- 5日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後)
- 12日(火) 都難言協専門研究会(午後)
- 13日(水) グループ指導(吃音)(15時半~16時半)
- 19日(火) 通級相談委員会(午前)
※午前の通級はお休みです
- 22日(金) 専門家診断(午後)
※午後の通級はお休みです
- 29日(金) 前期通級終了
- 30日(土) 押上小土曜公開授業「ことばの相談日」

○在籍学級訪問へのご協力ありがとうございました

在籍校訪問では、授業参観や懇談のお時間をいただき、ありがとうございました。今後も連携を図りながら、指導の充実に努めたいと思います。

○保護者講演会を行います

6月号でもお知らせしましたが、7月18日(火)にアナログゲーム療育アドバイザーの松本太一先生の講演会を実施します。お忙しいと思いますが、なかなかない機会です。是非ご参加ください。

- ◆ 日時 7月18日(火) 9:40~11:45 実際に遊んでみる時間もあります。
- ◆ テーマ 「アナログゲーム療育 ~ルールの守り合いを通じて成長する~」



お楽しみ会を行います

今回は、夏祭り。5つのお店を前半後半に分けて通級児童が担当します。話すのがちょっと苦手な人も、慣れないことに不安を感じる人も、少し勇気を出して、お客さんをお呼び込んだり説明したりと、お店番の仕事も楽しんでほしいと思っています。

- ◆ 日時 7月12日(水) 15:00~16:30
- ◆ 場所 押上小学校ことばの教室施設内
- ◆ 内容 夏祭り『夏だ! お祭りだ!』



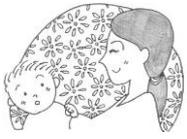
ことばが育つということ、ことばを育てるということ

ことばの教室の指導内容は、発達や課題によって様々ですが、どの子供たちの指導でも伝え合いとしての『ことば』を育てることを意識して指導を行っています。



ことばの発達

生まれたばかりの赤ちゃんは泣き声を上げますが、母親を呼んでいるわけではなく、最初は『空腹』『気持ち悪い』など不快なことがあるから泣いているだけです。でも、泣くと、母親が「よしよし、気持ち悪いねー、おしめ替えようね」と優しく声をかけお尻をきれいにしてくれます。また、笑顔も最初はただの反射です。でも、周囲の大人は「あー笑ったー」と喜んで声をかけたりあやしたりします。そうして、次第に赤ちゃんの感情にも分化が起こり、親を認識し愛着が生まれ、声をかけられると、笑ったり「あーあー」と声を出したりするようになっていきます。初めて母乳をあげるとき、おしめを替えるときから関係が生まれ、ことばの基礎は作られます。



ことばは、「道具である」と言われます。確かに「情報を伝える」ための手段であり、その他「意思を伝える」「思考を助ける」「記録できる」等の働きがありますから、重要で有効な「道具」です。しかし、道具と言うだけでは寂しい。ことばは、感情を表現し、気持ちを伝え合い、人と人との関係をつなぐものであり、精神的にも社会的にも人として生きていくのにとっても大事なものです。ことばが育つとき、そこには、感情の“動き”（「すごいね!」「おもしろいね」「悲しい」「痛いよ」）があり、そこに関わる人との“共感”（「ほんとはね」「ママもおもしろい」「たいへんだったね」「痛かったね。我慢したんだね」）が欠かせず、その相互関係の中でことばは発達していきます。



ことばを育てる

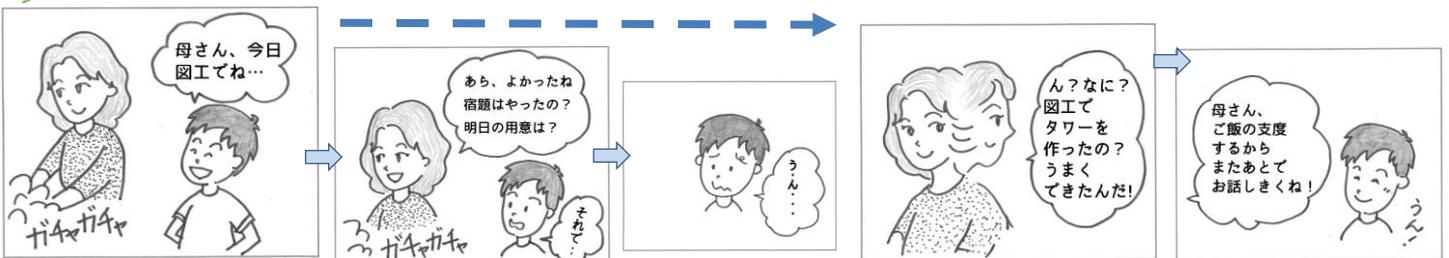
「ことばが遅いかも」「なかなかことばで伝えられない」といった子供たちには、単語を絵カードで覚えさせても、ことばはなかなか増えません。「これ何て言うの?」「これ何て読むの?」と矢継ぎ早に子供に質問する光景を見かけることがありますが、それでは、おしゃべりが楽しくなくなってしまいます。“話したい、伝えたい”という気持ちが大切です。道ばたでタンポポが咲いているのを見かけたら、「まあ、タンポポが咲いてるわ。かわいいねー」「ほら、綿毛、ふわふわ飛んでくよー」と一緒に綿毛を飛ばしてみる・・・この日常の繰り返しがことばを育てていきます。好奇心をくすぐることに成り、親子の会話は増えていきます。ことばが増えないと、どうしても教えたくなくなってしまいますが、子供の目線に立って、一緒に楽しみながらことばをかけていきます。ことばの教室では、担当者とおしゃべりしたり、楽しく遊んだり、絵本を読んだりして、気持ちを共有し、子供の感情や行動を言語化し、ことばのモデルを示したりして、ことばのキャッチボールを増やしていきます。



Aさんは、通級当初、質問に答えるくらいでほとんど話さず、絵本を読んでも表情は変わらず、声も出しません。楽しいのか嫌なのかもよく分かりませんでした。そこで、一緒に外へ出て虫や植物を見たり、絵本を読んだり、遊んだりして共有体験を重ねました。次第に担当者と話すのを期待のまなざしで見ようになり、Aさんから話すようになりました。表情豊かになり、担当者のことばを模倣したり、「～て何?」とたくさん質問したりと、ことばを吸収する下地ができてきました。ことばがぐっと増える時期。担当者は、様々な語いや表現を意識して使用し、さらに語概念を育て広げるための学習を行うようにしました。



家庭で・・・こんなことはありませんか?



忙しい日常では難しいときもありますが、夏休み、子供たちと過ごす時間も多くなります。意識してみると違って来るかもしれません。たくさんお話し、聞いてあげてください。